

ドリームクロス 9月最後のご報告

2002年9月19日 ドリームクロス 藤井

9月25日 会合

出席：声掛けして集まってくださったお母様が5人と 早坂さん 天野さん 藤井

内容： ニーズ集めの声掛け

それぞれの思いを出し合い 話し合いました

9月26日 在援協研修会

「きょうの会」渋谷 治巳氏

障害とは《命》のありようであり 人を構成する多様な要素の一つとして捕らえる

1997年まで「旧優生保護法」があり不妊手術がされていた

障害によって《年齢・性》が忘れられてしまう。 一般論・医学の知識・リハビリ的な理解では 関わる前に先入観をもってしまう 人として向き合ってほしい！！

(障害を持つ方が生活の主体だ)と認識し 介助者は「対等な立場」ではなくサポートだということを理解してほしい

瀧澤先生

家族支援は《本人が家族の中に存在》しているのが前提・本人の視点を大切に
本人の大変さと家族の大変さ

【本人】

最初に受け止めてほしい両親からの 戸惑いと拒否から 成長が始まる・本人は生きようとしている。

【家族】

五体満足を臨むと気持ちから差別は始まる。 その意識の時代的背景と障害を否定する潜在意識。 また自分の文化・地域の中に「障害者が幸せに生活する姿を見えていない」 親が障害のある子を受け止めるまでの《戸惑い》《辛さ》は当たり前。

30年前の方は学校に行っていない。 障害が発生する時期は 様々。

出生時障害があった場合 まず母親ではなく 父親か祖母の立場の方に話される。

母子を含めて 療育センター・訓練会(親のピアカウンセリング)

安心して話せる援助者っていない 自分でやるしかない 諦めて 絶望を学んでいる 解きほぐしてあげる = 家族支援に繋がる

【必要な支援の課題】

乳幼児期の生活組み立てへの支援・教育の保障はあるが地域の暮らしの支援はない
家族が作り出す・思春期の不安定さを支える支援・日中活動&GH&余暇支援(増えてきているがまだ不足)

* 違うことに対する戸惑いと拒否を廻りで支えてあげる

* 学齢期は 特に寂しいが 特別な教育を受ける権利があると考えたほうがいい
家族が望む支援とは！！

本人が一人の人間として 様々な経験をし 大人になり その人にふさわしい人生
が 人に支えられながら 過ごせること！

そのためには

支援を選択することができ それを提供できる社会が必要

以上

チャリティコンサートに関して緊急連絡

10月20日のチャリティコンサートでオーロラシティ屋上が使えなくなりました。
《目的の一つに地域へのアピールがあるので 東戸塚から動かないほうがいいの
では》《11月16日(土)なら少なくとも芹中にはご協力いただける(他の出演者には
はまだ確認しておりませんが)》を考えると《延期》ということも考えられます。
ただ《10月よりも寒くなる》等考慮しなければならない点も出てくると思われま
すので 皆様のご意見・アドバイスをいただきたくご案内申し上げます。メー
リングリスト・個人メール・お電話で お寄せください。2・3日中に結論を出して又
ご連絡いたします。 ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

次回会合予定

10月5日(土)13時~15時

参加できる方は お返事をお願いします 人数によって決めます。

影山氏講演会

10月26日(土) 13時半から14時(その後話し合い)

テーマ：地域福祉に対する思いと課題

是非ご出席ください！